

山岸が提唱する信頼の解き放ち理論 (Yamagishi & Yamagishi, 1994; 山岸 1998) によれば、他者一般の信頼性についてのデフォルト推定値である一般的信頼と、他者の信頼性を適切に推定する能力である社会的知性 (ないし他者の「人間性推定能力」) は、特定の閉鎖的關係にとどまることの機会費用が大きな社会環境で「共進化」するとされている。本研究の目的は、一般的信頼と社会的知性、特に人間性推定能力との間にポジティブな関係が存在することを示す一連の研究の一環として、一般的信頼と社会的知性に関するより適切な指標を用いて両者の間にポジティブな関係が存在することを示すことにある。この目的のため、本研究では札幌市の市民約 100 名をサンプルとして質問紙調査を行った。その結果、一般的信頼水準と対人対応能力の間にポジティブな関連がみられた。ただし、本研究で用いたサンプルは代表サンプルではなく、またその規模も小さいため、この結果のみから両者の間にポジティブな関係が存在することを証明することはできない。これまでの研究成果の蓄積に、新たに新しい証拠を付け加えるという役割を担う研究として位置づけられる。